第11回子どもがつくる町 ミニたまゆり2016

報告書

目　次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
ミニたまゆりとは？ミニたまゆりの沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
第１１回ミニたまゆりの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
ミニたまゆりのルール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
ミニたまゆりの通貨「ユリー」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
各グループの紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
公共グループの報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
製作グループの報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
遊びグループの報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
食事グループの報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
イベントグループの報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
模擬裁判・市議会の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
麻生区区長の訪問・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
協賛企業・団体のブース・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
子ども会議とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
第１回子ども会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
第２回子ども会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
第３回子ども会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
第４回子ども会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
アンケート集計結果（子ども）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
アンケート集計結果（保護者）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
第１１回ミニたまゆり運営組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
全国「大学自慢コンテスト」総合優勝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
かながわ子ども合衆国構想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
日本文化実践講座ミニフエ（ベトナム）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８

はじめに

私が、はじめて「ミニミュンヘン」について知ったのは、2005年の夏でした。その年の11月に、数人の先生と学生で立ち上げた「子どもが作る町ミニたまゆり」は、教員も学生も、手探り状態でスタッフの経験不足や不手際により今振り返ると至らぬことが多い不完全なイベントだったと反省しています。それでも、来場してくれた子どもたちは楽しそうにイベントに参加してくれました。その子どもたちの笑顔を忘れられず、今までこのイベントを続けてこれたのだと思います。今までの活動を振り返ると、「児童・保護者に喜んでもらえる地域に根付いた活動を大学内外の方々と共につくりあげる」という当初の目標はほぼ達成できたと考えています。今では 35を超える団体・個人がミニたまゆりの活動に賛同していただき、入場制限を掛けなければ ならないほど、児童の参加希望者が増えています。

ミニたまゆりの活動は、神奈川県大学発政策提案制度に採択され2017年度より「かながわ子ども合衆国」として、神奈川県全域に普及させる活動を神奈川県と協力して取り組んでいく事になりました。これからは、地域貢献だけではなく、「学生および児童への教育活動」・「大学としての研究活動」を意識した取り組みとしてミニたまゆりの目的を再定義し、神奈川県のキャリア教育に貢献できるよう学生とともに頑張っていきたいと考えています。

ミニたまゆりの活動は、大学関係者だけではなく、地域の協力者・協力団体など、多くの方々に支えらえています。最後になりましたが、ご尽力をいただいた皆様に心より感謝申し上 げます。

子どもが作る町ミニたまゆり 教職員代表
子ども未来学部 准教授 番匠 一雅

私がミニたまゆりに参加したきっかけは、1年生のときの福祉マインド実践講座という講義です。新入生歓迎会にて詳しい活動内容を知り、参加するならより深く関わりたいと思い、コアスタッフとして参加させていただきました。本番当日は天候にも恵まれ、大きな事故もなく終わることができました。

ミニたまゆりの活動に一生懸命取り組む先輩の姿に対する憧れもありましたが、活動する中で出てきた反省点や改善点を変えたいという気持ちが強く、2年次も引き続きコアスタッフとして活動させていただきました。大変な時期もありましたが、ミニたまゆり当日の子どもたちの笑顔を見たとき、コアスタッフを続けていてよかったと思いました。

今年のミニたまゆりが成功したのは大学の先生方・地域の方々の協力や、頼りになる先輩方の助言があったのはもちろんのこと、積極的に活動に参加してくれたコアスタッフ一同及び、学生スタッフのおかげだと思います。今後もミニたまゆりがよりよいものとなるように努めていってほしいと思います。本当にありがとうございました。

子どもが作る町ミニたまゆり 学生代表
人間福祉学部２年　藤原知美

ミニたまゆりの沿革

第１回　2005年11月
学園祭と同時開催
酒井ゼミの学生と数人の教員で運営
2日間で500人の参加

第２回　2006年8月
４日間で2000人の来場者
消防署・警察署・地域通貨たま・市民プールなどの協力を得る

第３回　2008年3月
３日間で3000人の来場者
川崎市阿部市長が視察に訪れる以後毎年ミニたまゆりに参加している

第４回　2009年2月
2日間で2000人の来場者
地域福祉学科１年の必修行事となる
川崎FMによるラジオPRを開始

第５回　2010年2月
地域交流センターが設立
同センターの担当行事および人間福祉学部１年の必修授業となる
前日に大子ども会議を開催

第６回　2011年2月
市議会が開催され市民の声から町の公約が決まる
模擬裁判が開催される
テレビ神奈川で特集が放映される

第７回　2012年2月
2日間で3000人の来場者
黒岩神奈川県知事が視察に訪れる
プロ声優・アナウンサーの指導による声優・テレビ局の仕事を追加
大人ユリーの販売

第８回　2013年2月
ANA航空教室・遊びの森など協賛企業のブースを開設
エコ・バザーを開催
Twitterの活用を開始

第９回　2014年2月
病院の仕事体験（新百合丘総合病院）ビューティーサロン、自衛隊
事前予約制の導入
職業案内所の電子可
大雪のため初日の１３時で中止

第10回　2015年2月
よみうりランド・こどもの国・社会福祉法人緑成会など協賛企業のブースを開設
目安箱を設置し、投稿内容を市議会にて議論
ベトナムにて第１回ミニフエを開催
第９回大学自慢コンテスト優勝

第11回　2016年2月
子どもレストラン・食品サンプル・J:COM（テレビ局）・福祉センター・ミニたまツアー・フラワーバスケット・カップス（音楽演奏）を新たに開催
神奈川県大学発政策提案制度に採択

ミニたまゆりとは？

「ミニたまゆり」は ドイツのミニ・ミュンヘン子どものまちを参考に、川崎市麻生区にある田園調布学園大学が地域の子どもたちのために開催するイベントです。ミニたまゆりに参加した子どもたちは、自分たちの力で町を運営します。町には、市役所・銀行などの公共施設、様々な製品を製作する工場や食事を提供するお店、ボーリング・射的などのゲームを楽しむための娯楽施設など様々なお店（仕事）が用意されており、子どもたちは自分の好きなお店で仕事に従事します。仕事を体験した子どもたちにはお給料が支払われ、税金を徴収し残ったお金で、買い物・食事・ゲームに参加するといったサービスを受けることが出来ます。子どもたちは、このような町作り体験を通して労働の喜び、お金の大切さなど、社会のしくみを楽しみながら学びます。「たまゆり」の名称は、本学の学生がよく利用する新百合ケ丘駅とたまプラーザ駅の名前から名付けられました。

ミニたまゆりの成り立ち

福祉の専門大学として開学した田園調布学園大学の酒井教授がゼミナール活動の延長として2005年11月に学園祭のイベントとして開催したのが、ミニたまゆりの始まりでした。2005年2月に酒井先生はドイツミュンヘン市で開催されているミニ・ミュンヘンの活動を知り、深く感銘を受け、この活動を大学で展開する事でプロジェクトマネジメントの学習教材として学生への教育効果が期待できると考えるようになりました。その考えを実践するために何人かの教員の協力者を得て小規模ながらイベントを実現させることに成功しました。

ミニたまゆりは、田園調布学園大学と川崎市教育委員会との連携事業です。

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

第１１回　ミニたまゆりの概要	
開催期間	平成２８年2月6日（土）・7日（日）
開催時間	10：00～16：00
場　　所	田園調布学園大学　３・４・５号館
対象年齢	５～１５歳（小学校未就学児は付添いが必要）
参加費用	300円（二日間有効）
事前予約数	6日 641名　７日816 名
当日参加者	約2,000人（２日間　保護者含む）

子ども会議の概要	
第1回 10月31日	ミニたまゆりの説明・テーマの作成
第2回 11月21日	市長選挙・税金の使い道について考える
第3回 12月12日	ユリーのデザイン投票・製品の作成
第4回　1月24日	ミニミニたまゆり（リハーサル）

ミニたまゆりのキャラクター

ミニたまゆりを応援してくる４人のキャラクターミニたまゆりを盛り上げるために様々なシーンで活躍してくれます。

ミニ太君　9才

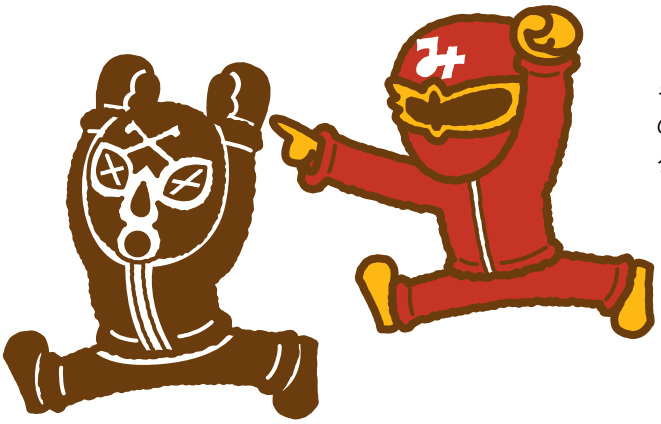
元気な男の子
正義感が強いが、たまに暴走する事も・・・
少しオッチョコチョイ

マユリちゃん 11才

おしゃれ大好き女の子
しっかり者のお姉さん
ミニ太君のブレーキ役

ブラック

子どもの町で悪事を繰り返す困った奴。いつもレッドに追いかけられている。時にはエスカレートして裁判に発展する事も・・・・



レッド

ミニたまゆりの平和を守る正義の味方。いたずら好きのブラックをいつも追いかけている。

ミニたまゆりのルール

①仕事をさがす

職業案内所で仕事と働く時間を決めます。
市民カードに時間を書いてもらい、お仕事カードを持ってお店に行きます。

②仕事をはじめる

仕事を始める前に、市民カードを店長に渡すのを忘れないでね。
遅刻をすると給料が減ります。

③仕事をやめる

終わる時間になったら市民カードにハンコをもらいましょう。

④お仕事カードをかえす

仕事が終わったら10分以内にお仕事カード返却所にお仕事カードを返してください。
カードを返さないと給料がもらえません。

⑤給料をもらう

仕事が終わったら銀行で働いた分のユリーを受け取ります。
30分働くと4ユリー支払われます。

⑥税金を納める

ユリーをもらったら、税務署に行って税金を納めましょう。
税率は50%です。

④ユリーを使う

もらったユリーで食事をしたりゲームをして楽しみましょう。

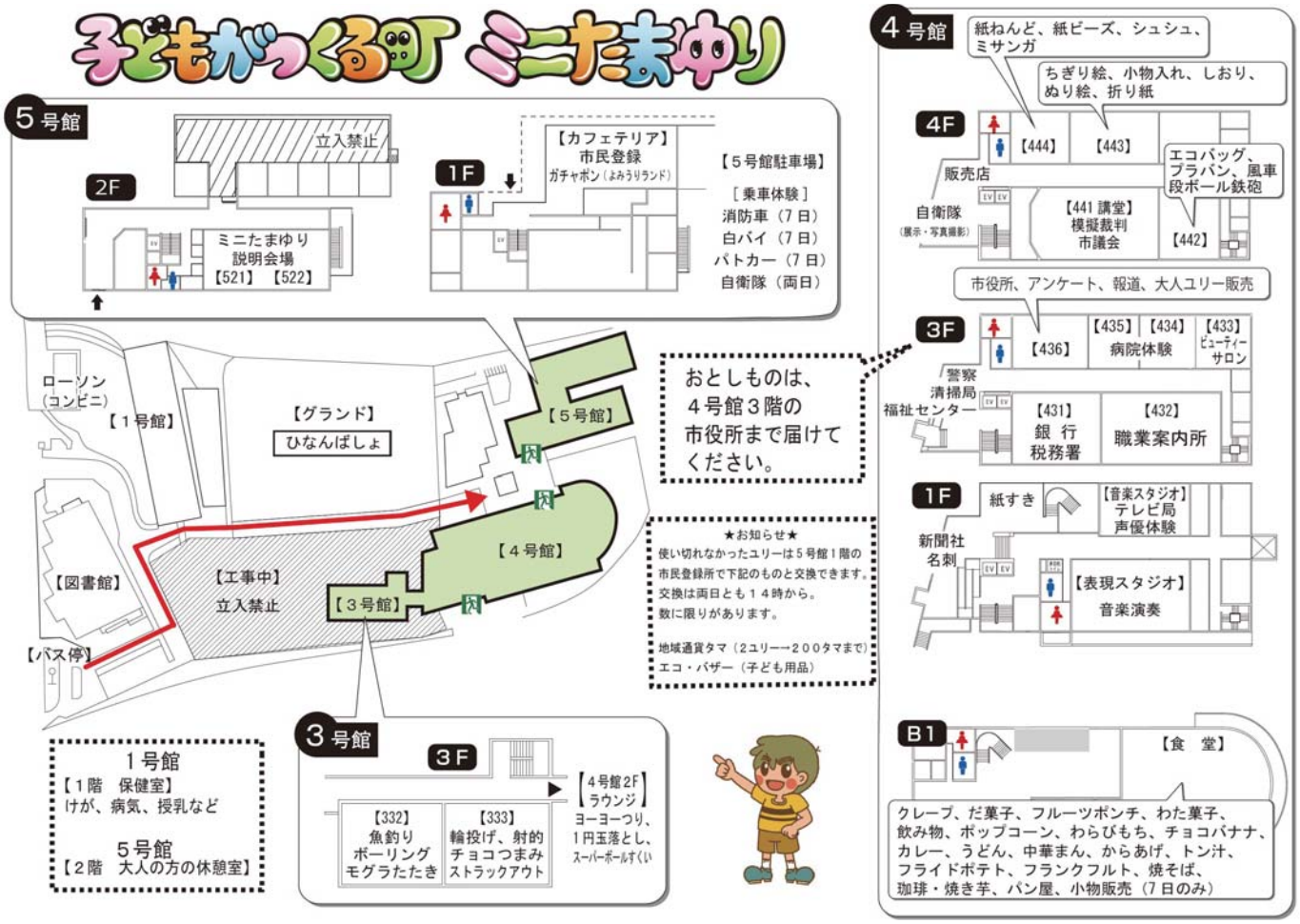
ミニたまゆりの仕組み

1.もらえるお給料は30分４ユリー
2.給料の半分を税金として納める
3.１つの仕事は60分まで働けます
4.困った事は大人スタッフに相談する

※集めた税金で公共で働いた人への給料が支払われます

子どもの町でやってはいけない事

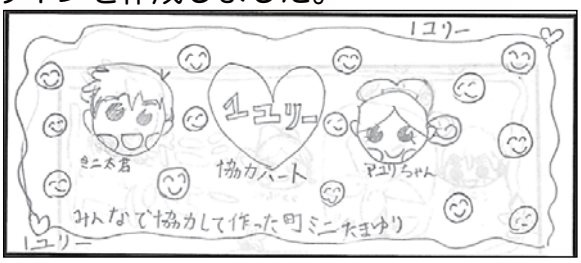
1.買ったものを他の人に売らない
2.ユリーの貸し借りはしない
3.ゴミのポイ捨てはしない
4.けんかをしない
5.階段や廊下を走らない
6.食べながら歩かない



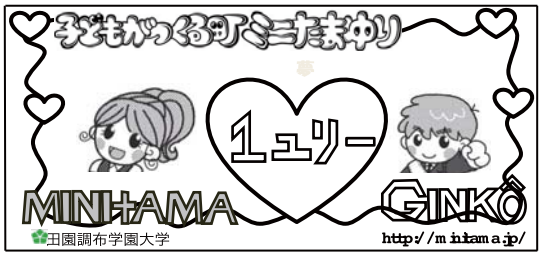
ミニたまゆりの通貨「ユリー」

ミニたまゆりの町の中で買い物をするには、「ユリー」という単位の地域通貨を利用します。１時間お仕事をすると、銀行で８ユリーの給料が支払われます。銀行の隣にある税務署で税金として４ユリーを納めた後、残った４ユリーを買い物や遊びに使います。

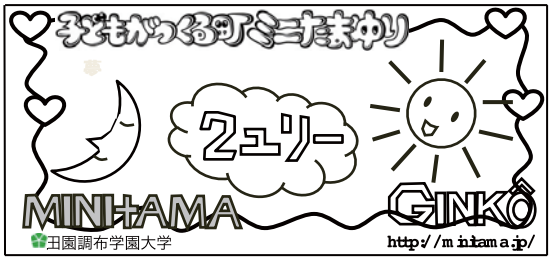
今年のユリーのデザインは、子ども会議の参加者から募集したイラストを元に作成しています。子ども達の応募作品から、次の3つの作品が選ばれ、これらの作品を元に大学生の実行委員がユリーのデザインを作成しました。



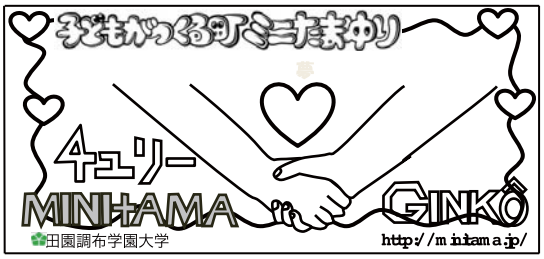
来田　梢ちゃん(小４)



山本　莉子ちゃん(小４)



水越　彩ちゃん (小４)



ミニたまゆりの税率について

ミニたまゆりの税率は、なんと５０％！　参加者のアンケートを見ると、多くの方々から税金が高すぎるとの意見をいただいています。しかし、第1回目から1時間働いて手元に残るお金が4ユリーという金額は一切変わっていません。第1回のミニたまゆりでは、1時間6ユリーと公表していましたが、実際に銀行で支払われる金額は2ユリーの税金を差し引いた4ユリーでした。第2回目では税金を納めるリアルな体験をさせたいという事で、1時間6ユリーを支払い、税務署で33%の税金（2ユリー）を納めるようにしましたが、小学校低学年には33%の税金を計算するのが難しく、税務署でのトラブルが発生しました。これらのトラブルを解消するために、1時間8ユリーの給与を支払い、その半分を税務署に収めるという今の方法が定着したのです。

大人ユリーについて

参加児童の保護者の方々から、「お客さんが少なくてかわいそう。お客さんになってあげたい」「子どもから食事を購入して食べてみたい」といった意見寄せられるようになり、保護者の参加料として500円を支払っていただき、大人専用のユリーを５ユリー分お渡しする制度を導入しました。大人ユリーは、子どもは使えない他、ビンゴ大会やエコバザーに利用する事はできません。

各グループの紹介

グループ名	内　容	店舗名
公共	町の住民になるための市民登録や職業案内・銀行などの市民の窓口になる施設が用意されています。その他にも、市役所・警察署・清掃局など市民の生活を支え、暮らしやすい町を作るための仕事がたくさん用意されています。公共の仕事で支払われる給料は、税務署で集めた税金から支払われます。	市民登録・職業案内・銀行・税務署・テレビ局・新聞社・市役所・清掃局・警察署・声優体験・福祉センター
製作	子ども達の力でプラバンやミサンガなどの小物を製作します。製作物は隣に併設された販売店で販売されます。自分で作成した小物を持って帰る事は出来ませんが、販売店で自分の作品をユリーで購入することができます。	小物入れ・しおり・エコバック・ぬり絵・折り紙・プラバン・シュシュ・ミサンガ・販売店・名刺作り・紙漉き・ちぎり絵・フラワーバスケット・おもちゃ工場
遊び	自分で稼いだユリーを使って、色々な遊びが体験できる店舗がそろっています。ゲームなどで遊んだあとは、その得点に応じて駄菓子などの景品がもらえます。射的の鉄砲や輪投げの輪などの店舗で必要な部材は子どもたちが自分の力で用意します。	ヨーヨー釣り・1円玉落とし・スーパーボールすくい・ボウリング・モグラたたき・輪投げ・射的・ストラックアウト・コリントゲーム・おもちゃと遊びの会
食事・デザート	子ども達が用意した食事やデザートを販売する店舗が多数用意されています。衛生面を考え、多くの店舗では、学生食堂で調理済みの食材を子どもが盛り付けしてお客さんに提供しています。 また、保護者の方が楽しめるお店としてパン屋を用意し、菓子パンなどを現金で販売しました。	クレープ・フルーツポンチ・綿菓子・飲み物・チョコバナナ・カレー・中華まん・豚汁・から揚げ&フライドポテト・フランクフルト・焼き芋&喫茶店・パン屋・豆腐屋・子どもレストラン
イベント	食堂に設置されたステージで定期的に行われるゲームや発表会などのイベントです。今年度の新しいイベントとして病院・ビューティーサロン・自衛隊の展示などが開催されました。また、余ったユリーを有効的に消費するための仕組みとして、エコバザーを開催しました。数多くの子供用お品が寄付され、集まった商品はユリーで販売されました。	音楽演奏・○×クイズ・ビンゴ大会・じゃんけん大会・宝くじ・自衛隊・消防車・白バイ・パトカー・病院体験・エコバザー・ ビューティーサロン・ガラポン・自転車教習所・スポーツクラブ・食品サンプル・模擬裁判・市議会・着ぐるみ

公共グループの報告

グループ長の感想

公共グループは職業案内所をはじめ、ミニたまゆり参加者は必ず通る重要な場所です。人が多く来るので学生スタッフ同士の連携をしっかりとることと、昨年度の反省を活かせるよう心がけました。

子ども達には仕事の重要性をミニたまゆりを通じて学んでもらい、労働の楽しさや達成感を伝えられたら嬉しいです。

今年は大きな問題は起きなかったのですが、まだまだ改善できることはたくさんあります。次回のミニたまゆりではより良いものになるよう努力したいです。

そして、公共グループに関わった協賛団体の皆さん、学生スタッフの皆さん本当にありがとうございました。

公共グループのお仕事一覧			
市民登録	登録料金（３００円）を集める	テレビ局	取材したビデオを編集し放映する
職業案内	仕事を紹介する	新聞社	取材した記事や写真を編集し新聞を発行する
銀　行	子どもに給与（ユリー）を支払う	声優体験	プロの声優の指導のもと、アニメに音声を吹き込む
市役所	アンケート回収・大人ユリーの販売	清掃局	町をきれいにする
税務署	給与の５０％を税金として支払う	警察署	落とし物や迷子の対応・町の安全を守る
福祉センター	協賛団体による福祉体験		

職業案内

職業案内所では昨年度の反省を踏まえ、仕事カードの配布方法を工夫し子ども達にわかりやすくしました。また、学生スタッフがマイクを持ち、最新の情報やイベントの案内などの放送もしていました。

テレビ局

テレビ局ではJ:COMと協賛で本格的な撮影をしていました。撮影したものは、新聞社に設置された大型スクリーンに投影され、来場者に見てもらいました。二日目の番組では麻生区区長がゲスト出演しました。

福祉センター

今年の福祉センターは３つの団体に相談・介護・手話の指導をしていただきました。そして、相談と介護を体験した子どもには、車椅子のリフト乗車券が貰える特典も付いていました。

製作グループの報告

グループ長の感想

製作グループは、子どもたち一人ひとりが職人さんや販売店の店員さんになり、商品作りや販売のお仕事を行います。私たち製作スタッフは、「学生にとっても子どもにとっても、やりがいを持てるような仕事を提供する」をテーマ目標として日々活動してきました。特に安全面と商品の質について少しずつ見直していきました。今回、製作エリアは大きな怪我や事故等なく、無事に終えることが出来ました。

ミニたまゆりに携わる中で、一生懸命に作っている姿やお仕事を楽しみに来る女の子、自分で作った商品を見せてくれる男の子など子ども達の様々な表情や仕草がとても印象的でした。ミニたまゆりでの体験が少しでも心に残ってくれたら嬉しいです。

制作グループのお仕事一覧

シュシュ	毛糸を使い髪どめを作る	プラバン	プラスチックの板に絵を描いてオーブンで焼く
ミサンガ	紐を結んでミサンガを作る	エコバック	紙を折ってバッグを作り、装飾する
小物入れ	牛乳パックに飾りつけをする	しおり	絵を描いたりしてデザインし、穴に紐を通す
紙すき	材料が溶けた水をすくってハガキを作る	販売店	作ったものをお店で売る
折り紙	様々な難易度の折り紙を折る	名刺	パソコンを使って名刺を作る
塗り絵	様々なキャラクターの塗り絵ができる	ちぎり絵	紙をちぎって作品を作る
フラワーバスケット	箱にお花（造花）を生ける	おもちゃ工場	協賛団体によるおもちゃ作り

販売店

製作グループで作成されたものは商品として販売店で売られ、子どもがお客さんとしてユリーで商品を購入していきます。

今回、女の子はシュシュやフラワーバスケット、男の子はプラバン・おもちゃ工場（おもちゃと遊びの会）のおもちゃが人気でした。

紙すき

毎年、川崎市の橘リサイクルセンターに機材と材料を提供して頂き実施しています。年齢関係なく多くの子ども達が一生懸命ハガキを作成していました。作成したハガキは手作りならではの温かみが感じられました。

フラワーバスケット

フラワーバスケットは、お花（造花）を生けた商品です。お部屋にインテリアとして飾ることが出来ます。色使いがそれぞれ異なり、見てるだけでも楽しい商品です。３ユリーと安くはありませんでしたが女の子に人気でした。

遊びグループの報告

グループ長の感想

今年は昨年より子ども達がお客さんとしても、店員さんとしても楽しめるように遊びブースの空間作りに努めました。看板や飾り付け、鳴り物の楽器などを去年より増やし、長年同じだったお仕事は新しいものを追加し、人気のないものを削除しました。その結果、昨年度に比べ倍以上の集客があり、子ども達にとってより有意義な時間になったのではないかと思います。

また、昨年度の列の割り込みなどの問題は、床にビニールテープを貼ることで並びやすいようにしました。

改善点として、スーパーボールすくいとヨーヨー釣りの景品が途中で品切れになってしまったので、来年は在庫を増やすなどして対応していきたいと考えています。

遊びグループのお仕事一覧

ヨーヨー釣り	縁日でおなじみのゲーム	モグラたたき	穴から出てくる人形をハンマーで叩く
スーパーボールすくい	スーパーボールをポイですくう	輪投げ	ペットボトルの的に輪を投げ入れる
一円玉落とし	水槽に一円玉を落とし、コップに入れる	射　的	割り箸鉄砲で輪ゴムを飛ばし、的に当てる
ボウリング	ペットボトルのピンをボールで倒す	おもちゃと遊びの会	協賛団体の手作りおもちゃで遊びを学ぶ
ストラックアウト	ボールを投げて的に当てる	コリントゲーム	ピンボールゲームの一種

遊び全体

今年も遊びブースの立地条件が悪かったが看板を大きくしたり、1日目からゲームの値段を１ユリーにするなどの工夫をしてお客さんを獲得出来ていました。しかし、値段のバランスが難しく１ユリーのゲームだけが混んでしまう傾向がありました。

ボウリング

去年はあまり人気がなかったのですが、今年は一番人気でした。レーンなども机を置くだけの作りから、しっかりとしたレーンに変えたことなどが良かったのではないかと思います。

コリントゲーム

つまみを引いて玉を打ち出すと玉はピン（釘）にぶつかりながら、不規則な動きで下の得点エリアの中に入ります。

ルールが分かりやすいので子どもから大人まで楽しめるゲームです。

食事グループの報告

グループ長の感想

今年は新しく考えたメニュー・企画をいくつか取り入れてミニたま本番に臨みました。昨年と同じようにウイルス対策を行うだけではなく、反省点として上がっていたテーブルや、椅子の配置数を増やして多くの方に利用して頂けるよう心がけました。

また、今年初めての”子どもレストラン”では多くの方に興味を持っていただけたようで、たくさんのお声を頂きました。また来年も行えるよう努めていきます。

今回の反省点は、先生との連携が上手く取れず、本番前・本番どちらもドタバタした点と予想以上に早く商品が売り切れてしまった点です。次回もさらに楽しんでいただけるよう邁進いたします。

食事グループのお仕事一覧

フルーツポンチ	フルーツ缶にジュースなどを注ぎ販売	飲み物	ジュースを紙コップに注ぎ販売する
チョコバナナ	バナナを切りコップに入れてチョコをかけて販売	フライドポテトから揚げ	調理済みのポテトを容器に盛りつけるから揚げを盛り付けて販売
シューアイス	協賛団体によるシューアイスの販売	フランクフルト	ホットプレートで温める
カレー	ご飯とカレーをお皿に盛りつける	豚　汁	豚汁を盛り付けて販売
綿菓子	専用の機械で綿菓子を作り販売	クレープ	市販のクレープ生地にフルーツをトッピング
豆腐屋	協賛団体による豆腐スイーツの販売	中華まん	中華まんの温め・販売
焼き芋・喫茶店	コーヒーと焼き芋を販売	パン屋	協賛団体によるパンの現金販売
子どもレストラン	家族のためにオムライスとパフェを調理		

喫茶店

障害のある方と一緒に働くことの出来るお店です。現金で購入することができるということもあり、多くの方が立ち寄って下さいました。障害を持つ方と子どもが関わり合うことの出来る良い機会を作ることができました。

フルーツポンチ

昨年とフルーツの内容を変更し、豊富にするよう心がけました。紙コップにフルーツを入れ、その上から選んでもらったジュースを注ぎます。量の調節などが難しいお仕事ですが、多くの子供達が働いてくれました。

子どもレストラン

今回初めて行った子どもがシェフを務めるレストラン。

登戸にレストランを構えるプロの指導で、今年はオムライスとイチゴのパフェを子どもシェフが保護者に振舞いました。

普段からお家でお手伝いをしてくれると良いなと思います。

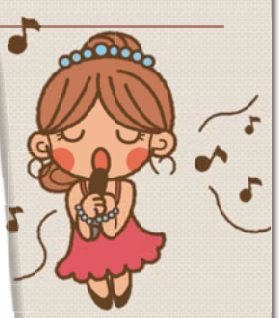
イベントグループの報告

グループ長の感想

今年のイベントグループは男子学生が少ない中での運営でしたが、協賛団体の方が机の移動や機材の運び込みを積極的に手伝ってくれました。

新しい店舗を出店することにより仕事の幅が広がり、子ども達の興味関心を深める事につながったと思います。子ども達はどの仕事を行うにしても、真剣に取り組んでくれました。

また、企業説明会を通して事前に企業の方と打ち合わせをすることにより、当日の活動をスムーズに進めることが出来ました。今年のイベントはコアスタッフの学生と企業の連携が上手く取れていたので、大きなトラブルもなく無事に終えることが出来ました。



イベントグループのお仕事一覧

じゃんけん大会	じゃんけんで勝ち残った子どもにお菓子をプレゼント	病院体験	血圧測定や身体測定などの体験ができる
○×クイズ	クイズのお題をスタッフが発表し○×に立って分かれてもらう	ガラポン	よみうりランドによる抽選会
ビンゴ大会	ビンゴになった人に、豪華賞品のおやつをプレゼント	消防車展示	消防署による消防車の展示
宝くじ	市役所で販売した宝くじの抽選会	自衛隊車両展示	自衛隊による車両の展示
ビューティーサロン	女の子にネイルアート・メイク・ハンドマッサージを行う	自転車教習所	協賛団体による自転車の講習
音楽演奏	プロミュージシャンによるカップス体験	スポーツクラブ	協賛団体によるスポーツ体験
自衛隊災害支援展示	自衛隊による災害時に関する情報や制服などの展示	食品サンプル	協賛団体による食品サンプル作り
白バイ・パトカー展示	警察署による白バイ及びパトカーの展示	着ぐるみ	着ぐるみによるグリーティング

ビューティーサロン

プロのスタッフの方々にネイルアート・フェイスメイク・ヘヤーメイク・ハンドマッサージを指導していただきました。参加した女の子は、自分が可愛くなっていく事に大興奮し、とても嬉しそうにしているところが印象的でした。

音楽演奏

プロミュージシャンが子ども達に音楽演奏を指導します。コップを使い、リズムを刻みながら歌を歌います。30分もすれば子ども達はとても上手に演奏できるようになります。プログラムの最後には、保護者の前で簡単な演奏会を開きました。

食品サンプル

かわさきマイスター友の会の協賛により、今年度初めて行った食品サンプル作り体験。子ども達は興味津々でとても人気のあるブースでした。作ったものを得意げに保護者に見せていました。

模擬裁判・市議会の報告

グループ長の感想

模擬市議は他グループとは違い、どちらも子どもたち一人ひとりの積極的な意見や自分で考えたことを発言することで、仕事をする場となっています。

参加の形は議員と傍聴人の二種類に分かれており、議員として仕事をしてもらう際には年齢制限が生じます。傍聴人は年齢制限がないため誰でも自由に出入りすることができますが、発言はあまりできません。どちらも1日1回の開廷になりますので時間がとても限られています。両日合わせても２回ずつしか行えません。その為、２つとも議論の内容を少し変えており、両日参加しても飽きないよう工夫をしています。

市議会：市民から出てきた意見や町をより良くするための論議を行う

市議会では町をより良くするために、市民の声に耳を傾けて町に反映させるにはどうすればいいのかを話し合います。

１日目は昨年の市議会で話し合い、町に反映できたものを報告しました。そして、市議会議員のみんなに町を回ってインタビューをしてもらい、その間傍聴人には”市議会の仕組み”というビデオを見て頂きました。インタビューが終了した後は集まった意見を一人ひとり出してもらい、それぞれについて解決策などを話し合いました。

２日目は主に町に設置してある目安箱に投函されている目安書について話し合いました。各グループについて良かった部分と改善したい部分を報告し、改善したい部分を市議会議員に多くの意見を出して頂きました。

今回出た様々な意見を来年度のミニたまゆりに反映し、その結果を次回の市議会で報告します。

模擬裁判：子ども裁判員の意見を元に、被告人の判決を下す

模擬裁判では事件があらかじめ起こっており、裁判員制度の形で裁判を進めていきます。裁判長の進行で進め、事件の概要をみんなに紹介してから、裁判員や傍聴人に質問をしてもらいます。

今回取り扱った事件は窃盗罪で、１日目はレッドの大切な時計がブラックのカバンの中に入っていたため、ブラックはサプライズプレゼントだと思い、自慢をして訴えられたという内容になっています。裁判員も傍聴人もカバンの形や時計を置いた時のことが気になっていたのか、レッドとブラックに多くの質問がされました。判決はブラックが有罪と下されました。ブラックがレッドに対して謝罪をし、閉廷となりました。

２日目の事件は１日目と同じでしたが、盗まれたものが時計ではなく、ネックレスに変わっていました。裁判員のみんなは１日目とは違う着眼点で質問をしていました。判決の結果、ブラックは無罪となりレッドとブラックは和解しました。

麻生区区長の訪問

麻生区長と子ども市長の対談

田園調布学園大学の所在地である、川崎市麻生区の多田昭彦区長にミニたまゆりへの視察に来ていただきました。他にも、川崎市教育委員会教育長・麻生区警察署署長などが同席し、子ども市長との対談が実現しました。

対談では子ども市長からの「ゴミの少ないきれいな町にするためにはどうすればいいか」「区長の仕事内容について」などの質問に答えていただいていた他、子ども市長へ「誰もが来てよかったと思える町を作るためには、どんな人がこの町を利用するのか、また利用している人はどんなことをしたいのか、不便だと感じていること、希望をちゃんと一人ひとりの意見に耳を傾けることが市長や区長の役目であり、それができることで多くの人が幸せになれる町を作れるようになるよ」などと町づくりのアドバイスをもらうことで子ども市長だけでなく、私たち学生も新たに学べたことが多くありました。

子ども市長の案内で多田区長にミニたまゆりの様子を視察していただきました。多田区長から「子どもが楽しみながら社会の仕組みを学ぶことができるというのはとても素晴らしい仕組みですね。もっとこのような活動があることを地域に知ってもらえるように頑張ってください」というお褒めの言葉をいただきました。

麻生区長と学生スタッフの対談

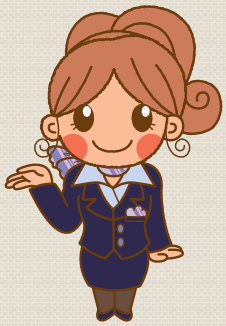
今年度は子ども市長との対談を終えた後、お時間をいただいて学生スタッフの代表３名とも対談していただきました。昨年度まではなかった試みで緊張して上手くまとめられない部分もありましたが、一人ひとりの話を丁寧に聞いて下さいました。

対談では区長や教育長、警察署長の方々が学生スタッフに「色んなボランティアがある中で、どうしてミニたまゆりというものに参加しようと思ったのか。参加するメリットは？」等の質問をし、それに対して学生スタッフがそれぞれ自分の考えを述べていきました。

今後はこの貴重な経験で得たことを振り返り、より良いミニたまゆりとなるように尽力していきたいと思います。

協賛企業・団体のブース

今年度で11回目となるミニたまゆり。年々協力していただいている団体・企業が増えており、今までで最多となる35の企業・団体・個人の方々が参加しています。今年から新たに参加する事になった企業・団体は、HIBIKIPIANO（音楽演奏）、J:COM（テレビ局）、おもちゃと遊びの会（おもちゃ工場）、ファンズアスリートクラブ（自転車教習所）、田中司好／川崎市市役（食品サンプル）、ビストロカプリシュー（子どもレストラン）となります。



テレビ局

病院の仕事体験

ビューティーサロン

声優体験

自衛隊

福祉車両

パトカー、白バイ展示

子ども会議とは

「ミニたまゆり」の実現に向けて、毎年10月から月1回のペースで子どもたちを大学に招いて「子ども会議」を開催しています。子ども会議では、大学生が司会者となり、子どもたちと一緒に新しい町のルールやお店を考えたり、料理を作る練習やお店の接客の練習・イベントに必要な看板や飾り付けの作成といった準備を行います

毎回70人近くの子どもたちが参加し、子ども独自の斬新なアイデアを発想してくれます

子ども会議に参加して、料理や接客の方法を覚えた子どもたちは、「ミニたまゆり」本番で、子どもたちのリーダーとして活躍し、自分たちが考えたルールや学んだ事を、別の子どもたちに指導します。

子ども会議に参加すると、１日につき４ユリーの報酬が支払われます。これは、子どもたちへの報酬という意味のほかに、オープン直後は町にユリーが流通していないので消費者が不在となり、店を開いてもお客が集まらないという問題を解決するという効果があります。

子ども会議の効果

毎回の子ども会議の中には必ずグループワークの時間が設けられています。子どもたちに、議題を投げかけグループにわかれ議論し、そこで集まった意見は最後の発表の時間に子どもたちに発表してもらいます。子どもだけの集まりでは活発な意見が得られませんが、ファシリテーター役の学生がうまく誘導する事によって、子ども独自の自由な発想が生まれてゆきます。

発表会で良い意見が発言された場合、積極的に町の仕組みに取り入れ、次回の子ども会議で町の決定事項として大きく取り上げ、子どもたちに周知します。この経験を繰り返す事で、子ども会議に参加する児童は、自分たちの考えが町づくりに繋がる事を理解し、ミニたまゆりを自分たちの力で作り上げているという実感を得られるのです。

子ども会議で決定した事項としては、町のキャッチフレーズである「未来へ向けてはばたける町」やユリーのデザイン、新しい店舗のアイデアなどがあります

また、子ども会議では、市長選挙を行い立候補者の中から７人の児童が子ども市長として選出されました。

当日の状況

第1回子ども会議では、ミニたまゆりについてと子ども会議についての説明を行いました。その際、子どもたちはしっかりと前を向いて静かに話を聞いていました。

アイスブレイクゲームでは名前リレーを行い、始めは消極的だった子どもたちも学生が間に入って盛り上げていく内に、積極的に参加していました。

後半は、ミニたまゆりのキャッチフレーズをグループに分かれて考えました。子どもたちに付箋を配り、思いついた単語を書いてもらい模造紙に貼り出しました。書き出した単語を組み合わせて各グループ1つのテーマを決めて発表してもらい、子どもたちにどのテーマが今回のミニたまゆりに相応しいか投票してもらいました。

第1回　子ども会議

日時：2015年10月31日（土）
場所：443教室　444教室
目的：ミニたまゆりの説明
　　町のテーマを考える

時間割
・ミニたまゆりの説明の上映、プリント配布
・アイスブレイクゲーム（仲間作り）
・ミニたまゆりのテーマを考えよう
・子ども市長選挙の説明
・ユリーデザインの説明

宿題の説明
・ユリーのデザインを考える
・市長になりたい人は、その理由を考える

子ども会議の感想

初回のためか、子どもも学生も緊張しながら始まりました。会議は子どもの人数が少なかったため、より親密に子どもたちと接することが出来ました。

アイスブレイクゲームではまだ緊張が解けない様子でしたが、休憩に入るとみんな口を揃えて「トリック・オア・トリート！」と言い、お菓子を貰っていて楽しそうでした。その後はグループワークでは色々な子と話したり、次回の子ども会議に胸を膨らませている様子でした。

各グループで考えたキャッチフレーズ

グループ名	キャッチフレーズ
いぬ	1人ひとりが協力し合える平和できれいな町
くま	みんなが協力して色んな仕事が出来る素敵な町
ねこ	未来へ向けてはばたける町
ひつじ	楽しくお買い物ができて平和で笑顔いっぱいな町
ねずみ	みんなでつくる夢のあふれる子ども社会
うさぎ	協力できて自然いっぱいのきれいな町

当日の状況

第2回の子ども会議では動物当てゲーム、市長選挙、そして税金の使い道を考えました。

背中にどんな動物が貼ってあるかを当てる動物当てゲームでは、多くの子どもが回答者に立候補し、答える側は大学生と一緒に元気に参加している様子が見られました。

市長選挙では7名の立候補者が居ました。少しの緊張が見られましたが、声は大きく、中には台本を見ないで話す子もおり、小学生とは思えない堂々とした態度でした。

グループワークでは、税金の使い道を考えました。この頃には子ども同士で積極的に会話をしており、大学生も自然と輪に溶け込んでいました。子ども達は集中して自分の案をどんどん書き出し、大学生の手を借りずに子ども達だけで発表するグループもありました。

第２回　子ども会議

日時：2015年11月21日（土）
場所：443教室　444教室
目的：市長選挙
　　税金の使い道について
　　考える

時間割
・アイスブレイクゲーム
・市長選挙
・税金の使い道について考えよう
・子ども市長の発表
・子ども放送局の説明

宿題の説明
・ミニたまゆりのいいところを考えよう

子ども会議の感想

第２回子ども会議では前回アイスブレイクゲームを行ったためか、子どもの緊張が少ない状態で始まり、学生と子どもの距離が近く子ども会議を楽しんでいるという印象がとても強かったです。

また、学生には子どもへの触れ合い方や注意を違う方向に向けるためにはどのように接したらいいのかということがよくできていたと思います。

市長選挙

市長選挙に立候補した子どもたちは、「立候補した動機」や「ミニたまゆりをどんな町にしたいか」など自分の意見を堂々と演説していました。選挙で選ばれた子ども市長は、皆やる気があり自分の意見をはっきり言える頼りがいのある子どもたちです。子ども会議終了後、会場に残ってもらい、今後の市長の仕事ににについて説明を受けました。翌週の12月7日には、子ども市長としての仕事として、川崎市のコミュニティー放送局であるFM川崎の生放送番組に出演し、学生スタッフとともにミニたまゆりのPR活動に貢献してくれました。

当日の状況

第３回子ども会議のアイスブレイクでは、なぞなぞを行いました。グループに分かれ問題を出し合い楽しそうに参加している状況が印象的でした。

その後、ユリーのデザイン投票を行い、子ども市長に司会をしてもらいました。緊張しながらもはきはきと司会をしていたので、子どもたちは結果発表にしっかりと耳を傾けていました。

その後は製品の作成を通して協力し合うことの大切さを学びながら子どもたちは作業に取り組んでいました。自分で製作したものを持って帰れないことを残念に思っている子どもが多く見受けらました。この製品を製作することで仕事とは何かということを学ぶきっかけ、楽しさを経験できたと思いました。

全体を通して子ども達に教えられることが多く、何より楽しみながら参加していたのがとても印象的でした。

第３回　子ども会議

日時：2015年12月12日（土）
場所：132・133教室
目的：ユリーデザインの投票
　　在庫作成

時間割
・アイスブレイクゲーム
・ユリーのデザイン投票
・グループワーク（製品の作成）
　エコバック、シュシュ
　しおり、ミサンガ、
　小物入れ、フラワーバスケット

宿題の説明
　・麻生区長への質問

子ども会議の感想

第三回子ども会議では、シュシュやエコバック・フラワーバスケット・しおり・小物入れを製作しました。ミニたまゆり当日に向けてお手本を製作するということで、子ども達は一生懸命作り上げていました。

子ども市長さんも決まり、市長さんには司会を少し担当してもらいました。ドキドキが伝わってきて私も少し緊張してしまました。

また、３回目となると子ども同士の協調性も強くなり、最後に集合写真を撮った時はとても楽しそうで、子ども達と大学生の笑顔で溢れていました。

宿題として集まったユリーのデザインの例

杉本 彩衣　すぎもと あい（小5）

安西 美乃梨　あんざい みのり（小５）

当日の状況

第４回子ども会議では本番さながらのリハーサル、ミニミニたまゆりが行われました。

初めに子ども達は受付で１０ユリーを貰い、前半と後半で分かれて店員役とお客さん役を体験しました。食事・製作・遊び等のブースで子ども達は自由にユリーを使い、当日の雰囲気を楽しみながら理解を深めました。

子ども達は自主的に接客をしている様子が見られ、賑わっていました。製作では当日の商品の作成をし、子ども達は真剣に取り組んでいました。

第４回　子ども会議

日時：2016年１月23日（土）
場所：444・443教室
目的：ミニ・ミニたまゆり

子ども会議の感想

ミニたまゆり本番直前ということもあり、子ども達にも緊張感がありました。そんな中、コアスタッフの学生が子ども達をリードしてくれて、スムーズに会議が進みました。

子ども会議も４回目と回数を重ねていたため子ども達とも仲良く会話をしながら、楽しく作業ができていました。

司会を務めたのですが、１人では進行の難しい場面や他の人への情報伝達も、仲間のコアスタッフのおかげで上手く行うことが出来ました。

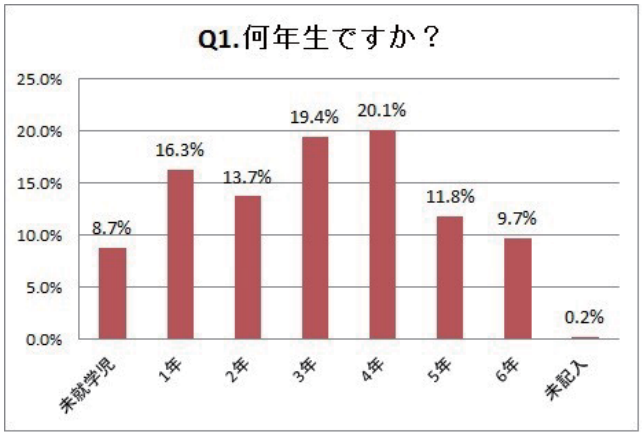
本番のイメージを大きく膨らませることの出来た良い会議でした。

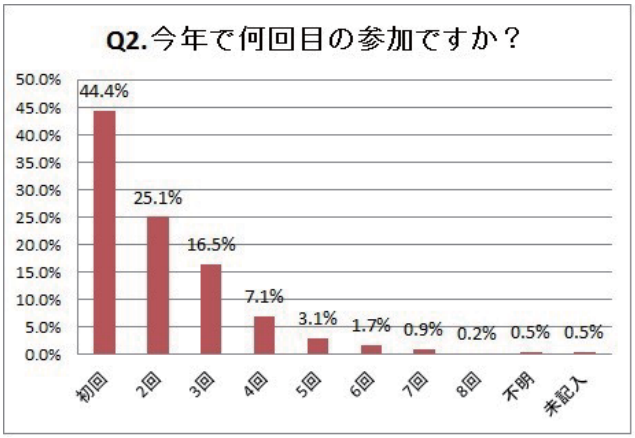
ミニ・ミニたまゆりで行ったリハーサル内容

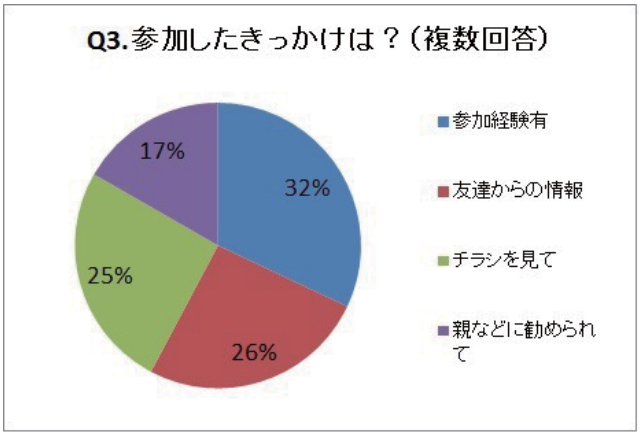
シュシュ	ミサンガ	コリントゲーム
しおり	エコバック	チョコバナナ
フラワーバスケット	モグラたたき	フルーツポンチ
小物入れ	ストラックアウト	ビューティーサロン

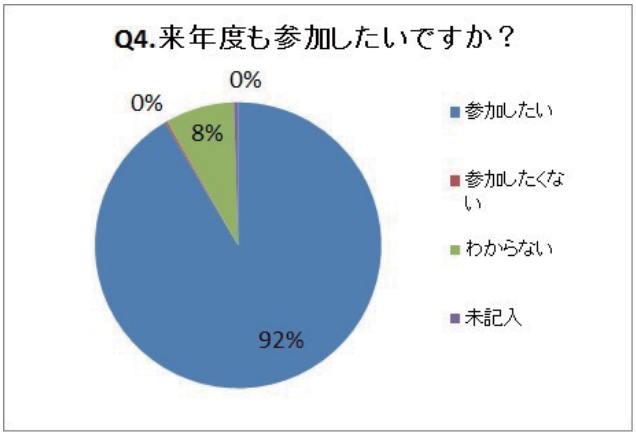
アンケート集計結果
子ども

子ども向けのアンケートの集計結果です
アンケートの回収方法
アンケート用紙に記入した子どもに駄菓子を配布
回収場所：市役所
回答数：４２３









楽しかった仕事

１位（45票）	ビューティーサロン
２位（19票）	ヨーヨー釣り
３位（18票）	綿菓子
４位（17票）	ミサンガ
	射的
５位（13票）	税務署
	チョコつまみ
６位（12票）	小物入れ
	紙漉き
	ストラックアウト
	病院体験
７位（11票）	プラバン
	ボウリング
８位（10票）	銀行
	シュシュ
	スーパーボールすくい
	フランクフルト
	カレー
	焼きそば
	フライドポテト
９位（9票）	職業案内
	報道Twitter
10位（8票）	テレビ局
	ポップコーン
	クレープ
	飲み物

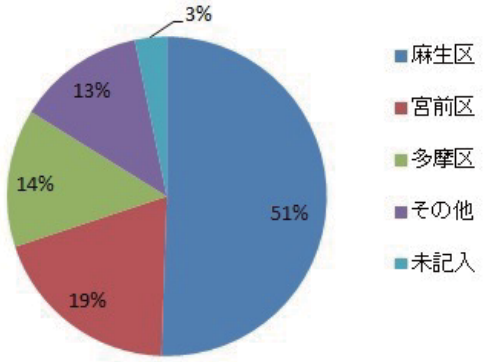
将来の夢

１位（18票）	パティシエ
２位（16票）	サッカー選手
	デザイナー
３位（14票）	保育士
４位（11票）	ケーキ屋
５位（7票）	警察官
	医者
	薬剤師
	幼稚園の先生
	ネイリスト
６位（6票）	アイス屋
	教師
	漫画家
７位（5票）	テニス選手
	ビューティーサロン
８位（4票）	野球選手
	陸上選手
	ダンサー
	歌手
	アイドル
	女優
	漫画家
	助産師
	パイロット
９位（3票）	バスケ選手
	作家
	モデル
	車掌
	車屋
10位（2票）	ラグビー選手
	空手選手
	アナウンサー
	声優
	獣医
	看護師
	ピアニスト
	美容師

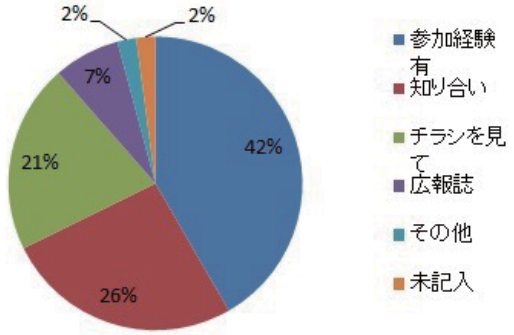
アンケート集計結果
大人

大人向けアンケートの集計結果です
アンケートの回収方法
食堂などでアンケート用紙を配布
回収場所：市役所
回答数：９３

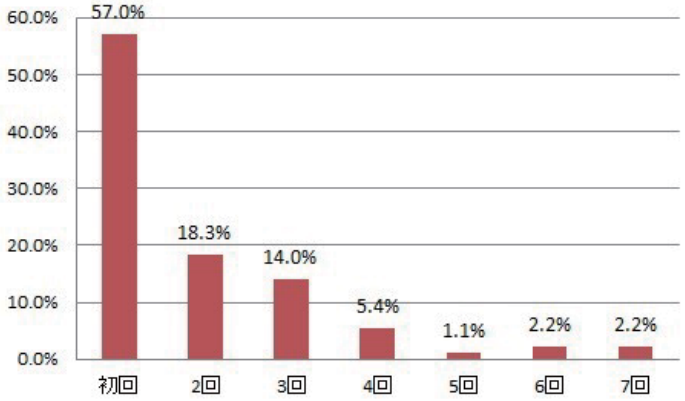
Q1.お住まいはどちらですか？



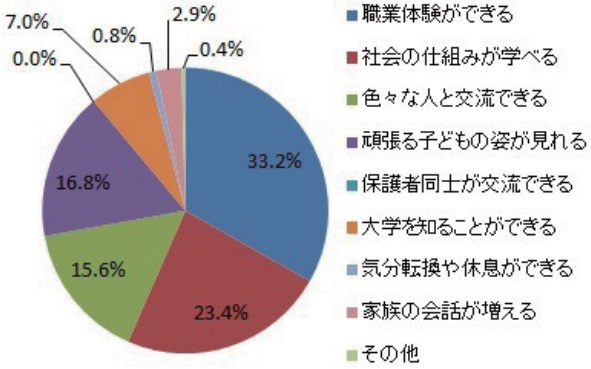
Q2.参加したきっかけは？（複数回答）



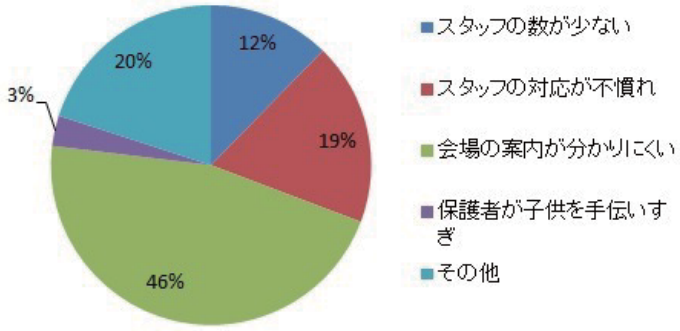
Q3.今年で何回目の参加ですか？



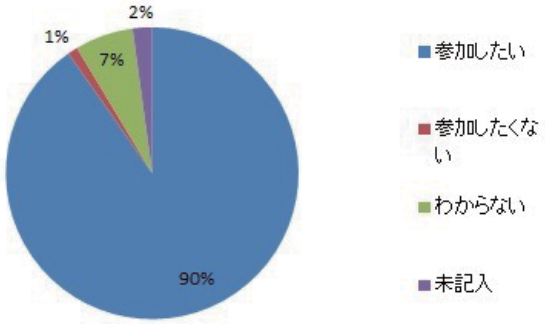
Q4.良かった点について



Q5.改善点について



Q6.来年も参加したいですか？



大人アンケート 自由記述（感想）

・なんでも買って買ってと簡単に言うが、働いて税金を納めて残った少しのお金を考えて使うことで、お金のありがたさがほんの少しでも理解できるのではないかと思います。
・働く楽しさを知り、働くことで、報酬がもらえ税金も払わないといけないという社会の一連の仕組みを体験できることで子どもが社会について考えることが出来るのでとてもいいイベントだと思います。
・毎年ありがとうございます。企画、準備〜運営・後片付けまで本当に大変だと思います(特に当日の主役である子ども達の相手は苦労が絶えないと思います)1年に1回のこのイベント、1年中子ども達が楽しみにしておりますので、引き続きよろしくお願い致します。
・小1の子と参加しましたが、親がついていないと仕組みが全く分かりませんでした。働く→給料→税金の流れを、市民登録所等で簡単に図解してもらえると良いのではないでしょうか。
・時間とお金を計画的に使うということが、実感できて張り切っていました。学生さん達が易しく面倒を見てくれて安心でした。広い大学の構内の場所やミニたまゆりの仕組みを2年生で1日で理解して、友達と持ち物や次行く場所を確認しながら行動できていて成長を感じました。ありがとうございました。
・幼稚園(5才)の時に初めて体験し、毎年、1年間、ずーっと楽しみにこの2日間を待ち望んでいます。今回で4年め、子供の成長がとても大きく感じられる親にとっても良い機会で、有難く思います。企画、運営、スタッフのみなさん、ありがとうございます。
・子ども達が何のために納税するのか理解できるものが欲しいですね。子どもが「働いて稼いだお金なのに、どうして払わなければならないの?」と言うもので。
・普段はお金の大切さにあまり関心がないので、仕事を一生懸命してお金(ユリー)をもらい、それで何かを買えるという喜びや、お金の大切さを学べるのでいい機会だと思った。
・去年は裁判を傍聴出来、とても分かり易く面白かったので、今年も、と思ったけれど仕事をしていて聞きに行けなかったのが残念ですが、社会で裁かれるというのはどういうことが、知る良い機会だなと思いました。仕事をして、食べる物を買う、ということもなかなか体験できないので楽しんで出来てよかったと思います。
・子どもの自主性が高まると嬉しい。いつもご飯が食べられること、新しい洋服や靴が買えること。それが何故なのかを考えるとても良い機会を与えてもらえる。
・社会には色々な職業がある事を知るいい機会になりました。働いて、報酬を得るという体験が出来ることはとてもやりがいを感じたようです。
・体験することによって、社会の仕組みを理解することが出来た。(お金の流れを理解できた。(小1))分からない事、出来ない事を年上の子に教えてもらっていた。(5才)
・全体を通して企画、内容は良いのですが、職業案内エベントの案内時間、場所が分かりづらく、案内されても人によって言うことが違ったりしました。スタッフさんの仕事をもっと明確にしないと、ぐだぐだになっていることが多々あったので、来年は修正していただけるともっと素晴らしいものになると思います。
・普段の生活の中では感じることのできない、働いてお金をもらい、税金を払うという模擬体験をでき、社会の仕組みを少しでも分かって良かったです。日々の生活の中で、社会を見る目が変わるんじゃないかと思います。
・本や、話して聞かせるだけではイメージしにくく、理解しにくいことを、自分が決まったルールの中で、自分自身で選択し、実践することで、体得できると思うので。また、「自分でわからないことを聞く」「自分で選び、考えて行動する」ことは社会に出てとても必要なことです。ただ。今の世の中で、小さい子に安全面に配慮しながらそれをさせるのはとても難しく、貴重な機会を与えて下さり感謝です。
・ふだんは何気なく、買ったり、遊んだりしてお金を使っていますが、自分で働かないとお目当てのゲームをしたり物を買ったりできないので、お金の大切さを知り、税金を納めることで仕組みを少しでも理解できた(?)のではないかと思います。
・初めて参加して、全く期待していなかったのに、とてもよく出来ていて驚いた。とても良かったです!職業案内所で漢字に振り仮名がなかったので、小1の娘は??と言う感じでした。同じように最初にもらったどこに何の仕事がある、というのが書いてある紙にも振り仮名がなかったので、読めなくて残念。でも全体的には、お兄さんお姉さんも優しく指導してくれて、職業も色々あって、気持ちよく過ごせました。楽しかったです。ありがとうございました。
・親子ともども、とても楽しく過ごせました。初めての参加だったのですが、以下思ったことです。初めに行くべき「職業案内所(?)」の場所が分かりづらく、もう少し表示があった方が良いと思いました。食事ができる場所が少なくて困ったので、教室を時間限定で開放するなどした方が良いのではと思いました。
・年参加者が増えてすごいイベントだなと思っていますし、卒業生として嬉しく思っています。企画からいろいろ大変だと思いますが、これからもより良いイベントになっていくことを期待しています。

大人アンケート 自由記述（改善点）

・5年生の子の方は友達と初参加でした。働いて、給料もらって、税金納めて…楽しそうにしていました。食べる所が大人が朝から席を取りっぱなしで動かない人がたくさん居た。テーブルをやめてシートにしてしまうとかにするともっと座れるのではないかと思うが、こぼしたりしてムリなんでしょうかね…皆さん、お疲れ様でした。これからも頑張って下さい。楽しみにしています!!
・食事(フランクフルト)の職業に就いたのですが時間に行ってみたら売り切れとのことで、お仕事がないので職業案内所にもう一度行って見て下さいとのことでした。計画を立ててお仕事を頂いているのに、結局また仕事を探すというようなことになってしまいました。
・職案で仕事を決めるとき、特別な仕事、病院やネイルなどの予約の時間があいまいなので、何時から予約できるか表示されているといいと思う。人気なので、子供の列も長蛇になり、入口付近が混雑していたので配置も考えてみては良いのではと思います。子ども達は生き生きお仕事体験を我が町で出来ることはとてもいいイベントだと思います。ありがとうございました。
・大学前(正門から入りました)でも校内でも何のアピールや告知が無く、知っている人達の流れについて5号館まで来てようやく、ミニたまゆりに着きました。せめて看板を出すとかもう少し大きな札を掲示するとか低学年の子たちが子供だけで来ても分かるようにしてほしいです。
・人気のあるお仕事は募集10分前にジャンケンというのは、お仕事の待ち時間も少なく、公平で良かったと思います。早い順番じゃなく子どもも納得できる。今回は土、日でかなりシステムが変更したので、それについて、入口でビラを配る(お金、人員かかりますよね)又は、入口や職案前に大きく書いておくなどして、単純に分かるようにして欲しいです。来年も楽しみにしております。
・システムの共通理解ができてないように感じた。受付にとても時間がかかりました。事前登録しているのだからもっとスムーズに受付が出来るようにしてほしい。食堂での食べ物、ゲーム等全てが高い。子ども相手なのだから、全て1ユリーでも良いのでは?
・「譲り合い」を特に意識できるゲームや仕事があるといいなと思いました。食堂の席(テーブル)が少なく、食べる場所が少なく感じました。大人と子供の休憩所を分けてはいかがでしょうか。お仕事の受付(予約)が2つぐらいまでできると時間的に無駄にならずに効率的に過ごせると思いました。お仕事とお仕事の間の空いた時間(20分間ぐらい)の使い方が難しかったです。
・小3以上ともなると慣れるのも早く、また文章理解も出来るのでしょうが、低学年は親のサポートがないと難しかったです。パンフレットを低学年用(ひらがな表記)のものを用意してもらったり、「市民登録」のところで低学年用、初めての人用に説明(仕事→銀行→税など流れや、まずどこへ行くのか)するブースがあればもっと良いのかな?と思いました。後は、普通の一般社会ではこうですよ…という風にリークしてあるともっと実感がわくかもなと思いました。販売所での販売の仕方や並び方など、もう少しフォローしてもらえると、効率性など考えられるようになると思います。
・税金が高い。税務署の印象が悪くなると思った。事前に会場案内図や詳しい流れなどを知りたかった。(HPなどでも)税金で半分無くなっても、稼いだお金で買えるものがたくさんあり、食べ物も2ユリーと安くてよかった。次はおもちゃを買うんだ!と目標を持って楽しく働いていた。食堂は、1日席取りをしている所がほとんどで、買ったものを食べるスペースがなかった。親が自分の場所として1日取ってる感じだった。荷物を置いての席取りではなく、食べたら次の人に席をあけ、回転させていくこれは大人のマナーですが。子ども達が食べるスペースを空けてやるためにも、席取りはやめていただくよう呼びかけてもらえると嬉しい。
・食事をする場所がもう少しあるといいと思いました。席に物を置いたままずっと席が空いていることがあり、子どもたちが席を探すのに大変そうだったので改善していただきたいです。ほとんどの食べ物屋さんが15:00前に売り切れてしまっていたので残念。お仕事案内とイベントの並ぶ所が子供が間違わない様にわかりやすくした方が良いと思います。
・毎年必ず開催を続けて欲しい。1〜2月はインフルエンザや風邪の流行がすごいのでできれば他の月だと嬉しい。
・今回初めて参加させて頂きました。10時を少し過ぎた頃現地に到着しましたが、入り口付近に受付場所までの地図やご案内の方がいらっしゃればわかりやすいかな…と思いました。とりあえず慣れていそうな方々の後ろについていく感じで受付場所に行きましたが、列が長く驚きました。受付は名字ごとに分けてありましたが、カ、サ行だけが異常に混雑していて、何か対応策を考えて頂けたら嬉しいです。その後の職安もイベント受付の場所に列が出来ていましたが、列を作るようにうながす指示もないので割り込みが発生しそうでした。子どもたちだけで受付する場合もあるので、もう少しわかりやすくしてもらいたいです。ここまで、改善してほしい所ばかり述べましたが、このイベントを開催して頂けている事はとてもありがたく、子どもの将来につながると思いました。企画、運営して頂いた多くの方々に本当に感謝しております。子どもが運営の手伝いが出来る年齢になったらそちらにも参加出来るといいなぁと思っております。キッザニア東京等で職業体験も出来ますが、地域で手作り感あふれる温かい環境で、職業体験をすることが出来、子どもに色々な意味で貴重な経験になりました。

第11回子どもが作る町ミニたまゆり2016実行委員会

教職員スタッフ　２０人　教職員代表　番匠一雅
学生スタッフ　合計２５７人　学生代表　藤原　知美
　ミニたまゆりコアスタッフ　９４人
　（公共２２人・製作１２人・遊び１２人・食事１１人・イベント１９人・総務６人・その他９人・物品３人）
　ミニたまゆり学生ボランティア　１６３人
　（公共４０人　製作３８人　遊び２７人　食事３３人　イベント１９人　その他６人）

協力団体

ＨＩＢＩＫＩＰＩＡＮＯ	音楽演奏、カップスの指導
J:COM	テレビ局、取材協力
NPO法人ソシオキュアアンドケアサポート	ビューティーサロン
NPO法人ファンズアスリートクラブ	自転車教習所、スポーツクラブ
麻生区社会福祉協議会	福祉センター
麻生区役所	ボランティア派遣、着ぐるみの提供
麻生警察署	パトカー、白バイの展示、着ぐるみの提供
麻生消防署	消防車の展示、着ぐるみの提供
麻生総合高校	ボランティア派遣、声優体験、新聞社、名刺作成
麻生養護学校	物品の販売
おもちゃと遊びの会	おもちゃ工場
金井原苑	福祉センター
かわさきエフエム	番組への出演、PR協力
川崎市教育委員会	小学校への告知協力
川崎市役所	企画協力（食品サンプル）
川崎フロンターレ	着ぐるみ（ふろん太）の提供
木下鈴奈（声優）	声優体験
自衛隊　神奈川地方協力本部	車両の展示、子供用制服、着ぐるみの提供
社会福祉法人　はぐるまの会	焼き芋、喫茶店
社会福祉法人　緑成会	福祉センター
新百合ケ丘総合病院	病院の仕事体験
神野　文子（フリーアナウンサー）	テレビ局、アナウンサー指導
橘リサイクルコミュニティーセンター	紙すき
田中　司好（かわさきマイスター）	食品サンプル
地域通貨たま運営委員会	地域通貨の提供
とうふ菜園玉川学園店	豆腐スイーツの販売
なでしこ同窓会	エコバザー
日経クリエイト	食品の調理、学食の運営
原田管理商会	協賛金の提供
ビストロカプリシュー	子どもレストラン
ひよこ工房	パンの販売
よみうりランド	ガラポン
ヨネッティー王禅寺	プール券の提供

第11回子どもが作る町ミニたまゆり2016報告書

制　　作：田園調布学園大学子どもが作る町ミニたまゆり実行委員会
編　　集：渡邉　紗菜・望月　陽加
イラスト：moeko　ホームページ：http://moekonet.lix.jp
デザイン：番匠　一雅
印　　刷：株式会社ダイトクコーポレーション
連 絡 先：田園調布学園大学地域交流センター　メール：c-center@dcu.ac.jp

第11回子どもが作る町ミニたまゆり2016学生コアスタッフ

委 員 長：藤原　知美
公　　共：池田　かがり（グループ長）・仙頭　渚・松本　大輝・伊東　雄大・太田　祐弥・野澤　隆一郎・山崎　克也
相沢　高弘・新垣　実佑・後藤　真帆・坂下　百恵・下川　優香・曽根　純実・伊達　紅緒・三井　良太
池田　葵・小田切　赳真・渡邊　譲郁・望月　貴裕
製　　作：大和田　幸実（グループ長）・加藤　拓哉・後藤　聖梨香・松下 翔太郎・道東 豪・小川　瑞希・小島　海帆
谷川　栞・寺島　しほ・内藤　綾子
遊　　び：山岸　帆高（グループ長）・安藤　祐莉・川田　未菜美・菊池　将志・櫻井　智紀・徳永　愛里沙・井川　直
太川　圭佑・内藤　綾香・仲亀　真季・浜田　優希・土屋　美久里・冨沢　穂花・橋野　杏花
食　　事：中島　千陽（グループ長）・小山　祐太・山本　理沙・秋山　知夏・北郷　かえで・清水　麻希・栗原　寿実
小林　美月・林　咲来・福井　真由
イベント：稲吉　薫（グループ長）・小田　優希・鈴木　優也・米満　涼・五十嵐　怜香・大石　すみれ・大江　ちあき
大川　優美・織茂　伶奈・新妻　花菜・山口　万緒・熊坂　琴音・松野　遥・村山　知美・山崎　日菜子
総　　務：松田　祐希・三浦　駿介・望月　陽加・渡辺　紗菜
物　　品：渕上　拓磨（グループ長）・川崎　理沙・佐竹　真奈

第12回子どもが作る町ミニたまゆり2017は、2017年2月11日（土）・12日（日）の開催となります。
詳しくは、ミニたまゆりホームページ（http://minitama.jp/）をご覧ください。

編集後記

委員長としてミニたまに携わった当初は頑張ろうという気持ちと同時に不安もありましたが、同期の学生達の支えや、優しくしっかりとした後輩達のお陰で無事にミニたまを終えることが出来ました。協力して下さった大学関係者や企業の方々には本当に感謝の言葉しかありません。ミニたまがこれからも大きく成長することを願って、力の限り後輩をサポートしたいと考えています。この度は本当にありがとうございました。
（藤原　知美）

昨年度のミニたまは皆様のご期待に添えることが出来ましたか？昨年度は私も先輩なり後輩に良い部分を見せられたか、お手伝い頂いた皆様に失礼のなく満足頂けたかも不安になります。私たちは毎年皆様のアンケート、意見を基に課題を解決する為にはどうしたら良いか模索しています。これらは学校の中だけでは体験、実現できないことだと思っています。だからこそ、皆様と新しい発見や関わりそこれからも大切にしていきたいと思います。今年度もどんなミニたまになるのか、これからも皆様と笑顔でミニたまを迎えられたらと思っています。
（太田　裕弥）

今年度は、２年生が中心に去年の失敗や改善点を見直し、より良いミニたまにしようと奮闘しました。１年生もコアスタッフであるという自覚を持ちミニたまに参加していたと思います。それにより各グループがが問題や課題を改善し、問題なく今年度ミニたまを終えることができたのだと思います。課題や新しいものを取り入れ、今年度もミニたまとコアスタッフがより成長できる町に頑張っていければいいと思います。
（山岸　帆高）

私は第11回ミニたまゆりで物品のグループ長をさせて頂きました。私のグループは常に裏方で作業をする為、知らない方がほとんどだと思います。時にはミニたまゆりの仲間にさえ物品管理の存在を忘れられていることもありました。そんな我々は、ミニたまゆりで使う物品の管理や、子ども会議・ミニたまゆり本番で使う物品の用意などをしていました。存在感はありませんが、陰ながら他のグループをサポートすることが物品管理の仕事です。この機会に、ミニたまゆりには私たちのような人が裏で支えていることを知っていただけたらなと思います。
（渕上　拓磨）

「あとは自分の思うようにやってみて」と先輩から託された１年の夏。思えば長いようで短かったなと思います。昨年度から本格的な部署として立ち上がった総務の一員として、この報告書の編集に携わらせて頂きました。多くの先生方、先輩方を始めとしたミニたまゆり関係者の支えがあったからこそ完成に至ったのだと思います。ミニたまゆりがより良いものとなるよう、精進してまいりますのでこれからもよろしくお願い致します。
（渡邉　紗菜）

今回初めてミニたまゆりに携わり、どのように作っていけば良いのか分からず戸惑うことも多かったですが、先生方や先輩方など多くの方々にご協力頂き、ミニたまゆりの報告書を完成させるまでに至りました。
ミニたまゆりにご協力して下さった皆様ありがとうございました。来年度もより良いミニたまゆりになるように頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願い致します。
（望月　陽加）

全国「大学自慢コンテスト」総合優勝

全国「大学自慢」で初優勝

※タウンニュース2015年11月27日号より引用

田園調布学園大学（麻生区東百合丘）はこのほど、全国から９大学が集い地域活動をテーマに発表し合う「第９回大学人サミット信州・まつもとカレッジ２０１５」の「大学自慢コンテスト」で初優勝を果たした。同大学が行ってきた麻生区と連携しての地域活動や、被災地への復興支援活動などが評価された。

神奈川県全域・東京多摩地域の地域情報紙
タウンニュース
エリアで地元をも
ホーム　横浜　川崎　相模原・東京多摩　県央

麻生区版　掲載号：2015年11月27日号

田園調布学園大
全国「大学自慢」で初優勝　教育
地域連携、復興支援に評価

ツイート　いいね！4　シェア　G+1　0

田園調布学園大学（麻生区東百合丘）はこのほど、全国から９大学が集い地域活動をテーマに発表し合う「第９回大学人サミット信州・まつもとカレッジ２０１５」の「大学自慢コンテスト」で初優勝を果たした。同大学が行ってきた麻生区と連携しての地域活動や、被災地への復興支援活動などが評価された。

優勝に喜ぶ田園調布学園大の出場者

11月７日・８日の２日間に渡り、松本大学（長野県）で行われた今大会のテーマは、「地域の地域による、地域のための、大学人サミット」。全国から桜美林大学や弘前大学などの９大学、関係者約１４０人が参加し開催された。

11月７日・８日の２日間に渡り、松本大学（長野県）で行われた今大会のテーマは、「地域の地域による、地域のための、大学人サミット」。全国から桜美林大学や弘前大学などの９大学、関係者約１４０人が参加し開催された。

田園調布学園大は教員・職員・学生のチームで２回目の出場。前回出場時は準優勝の成績をおさめていた。メーンイベントであるプレゼン形式の「大学自慢コンテスト」では、地域の子どもたちが仮想のまちをつくり、仕事体験や社会のしくみを学ぶイベント「ミニたまゆり」や、麻生区と連携して行ってきたイベント型の子育て支援プログラム「けろけろ田園チャイルド」、福島県いわき市を訪れ、東日本大震災の被災者を元気づけ、地域の人同士のつながりをサポートする「ＤＣＵ被災地復興支援活動」などを発表。特に被災地復興支援活動は、学生の声から実現した取り組みであることも、高評価につながったという。

被災地復興支援活動で学生リーダーを務め、同サミットに参加した同大学３年の堤見彩香さんは「いわき市の方々の『忘れないでほしい』という思いをつなぐことができたのでは。優勝に感謝し、今後の活動に取り組みたい」としている。

同大学の番匠一雅准教授は「コツコツと長くやってきた地域貢献活動が外部から評価され、嬉しい」と語った。

かながわ子ども合衆国構想

ミニたまゆりの活動が、神奈川県 「大学発・政策提案制度」に採択されました

今年で11回目となるミニたまゆりは、年々規模が大きくなってきており、現在では、約300人の学生スタッフと教員が、35以上の外部団体の協力を得て、70の店舗を企画しており、約2000人の来場者が様々な仕事を体験できるようになっています。また、事前に町づくりに興味がある子どもを集め、町のルール作りや市長選挙、紙幣のデザインなどを行う「子ども会議」において、自分たちの町を良くするために、地域の課題について考えるとともに、問題解決力を育成しています。

最近では、川崎市や麻生区が積極的に協力してくれるようになり、川崎市、麻生区の特色ある産業を体験できる店舗を用意し、地域の職業人から直接指導を受けることにより、自分たちが育った地域の特色ある産業を理解するとともに、郷土愛を醸成する工夫を行っています。

この様に、本学がミニたまゆりの活動に取り組む目的は、参加児童へ「職業感の育成」「社会の仕組みの理解」「問題解決力の育成」「郷土愛の醸成」を促す事であり、本活動の意義は大きいと考えています。

今回、ミニたまゆりの活動をより多くの子どもたちに体験してもらえるよう、神奈川県が主催する「大学発・政策提案制度」を利用して、“ミニたまゆりと同様な取り組みを、神奈川県全域に普及させる”ための提案を行い、神奈川県の政策として正式に採択されることになりました。

「大学発・政策提案制度」とは、神奈川県が専門的な知見や人材等を有する大学と一層連携強化を図ることにより、多様化・複雑化する県政の課題を解決することを目的として、平成21年度からスタートさせた制度であり、神奈川県内に所在する大学から県政に関わる政策提案を募集し、公開コンペ方式の審査により選ばれた提案について、大学と県が協働で事業を実施するという制度です。

今年度は、10大学から13の政策提案の応募があり、その中から、予備審査を通過した7大学が最終審査として、7月29日にひらかれた公開コンペに参加し、審査員の前で、提案内容についてプレゼンテーションを行いました。田園調布学園大学からは、子ども未来学科番匠准教授と社会福祉学科和専任講師が公開コンペに参加。公開コンペを経て採択されたのは、田園調布学園大学の「神奈川県子ども合衆国を実現するための制度構築」、東海大学の「ICTを活用した防災訓練・防災マップ作成による若年層への防災教育」、東京都市大学の「県内土木施設を紹介するWEBサイトの構築とSNSによる情報発信、およびこれを基盤とするインフラツーリズムの展開」の3提案。本学の政策提案は、本学で11年間続けてきた、ミニたまゆりのノウハウをマニュアル化するとともに、神奈川県に存在する5つのキッズタウンと連携し「かながわ子ども合衆国」を組織し、まだ、キッズタウンが開催されていない地域に新たなキッズタウンを開催する支援を行うという内容になります。

神奈川県庁で広かれた表彰式では、黒岩知事から表彰を授与されるとともに本活動を神奈川県内に広げるために、大学と県が協働で事業を実施する事を約束していただきました。

日本文化実践講座ミニフエ（ベトナム）

日本文化実践講座ミニフエは、2015年から開催されている、田園調布学園大学の番匠先生が発案した異文化学習プログラムです。本活動は、10年間にわたるミニたまゆりのノウハウを発展させ、外国人日本語学習者が、職業体験を通じて日本文化への理解を深めるための教育プログラムになっています。

ベトナム社会主義共和国フエ外国語大学日本語日本文化学部が、本プログラムの活動フィールドとなっており、約200人の学生スタッフが、日本文化を模した20の店舗を企画・運営します。ミニフエの活動は10月～3月までの半年間。店舗の企画・準備の他、日本式の接客方法や礼儀作法、ビジネスマナー、組織論を学ぶための講義やレポートが課せられ、ミニフエのプログラムを修了した学生は、実習５単位分の単位が取得できます。

その他にも、最優秀店舗を決定するコンテストも開催され、商品やサービスが日本文化を体現しているか、「おもてなし」を意識した接客ができているか、などの評価項目て採点し、順位を決めています。

2016年4月に開催された第２回ミニフエでは、そうめん、どら焼き、おにぎり、コロッケ、おでん、たこ焼き、天ぷら、和菓子、日本人形、紙すき、うちわ、ポチ袋、忍者、風呂敷、浴衣、茶道、メイド喫茶などの店舗が出店され、コンテストでは紙すきが優勝となりました。

川　新　聞　　第3種郵便物認可

ベトナムの大学が３月開催

〝縁日〟で日本文化体験

田園調布大准教授企画　学生が「おもてなし」

ベトナムの大学で３月、日本ゆかりの〝縁日〟が開かれた。日本語を学ぶ学生たちが日本の伝統的な地域文化を体験する機会として、田園調布学園大学（川崎市麻生区東百合丘）の番匠一雅准教授が開催を提案。本やインターネットでしか知らなかった「日本」の一端に触れ、学生たちは語学や文化の学習意欲を高めたという。（北川　文）

たこ焼き、紙すき、金魚すくい、かるた…。日本の食や遊び、手工芸を体験する12のブースが並ぶ。和紙や竹、日本語の看板などでブースを装飾し、法被や浴衣を着た学生たちが「おもてなし」の心で接客した。

3月21日、ベトナム中部の都市フエにあるフエ外国語大学で開かれた「ミニ・フエ縁日」。同大の日本語文化学部で日本語を学ぶ学生が企画・運営した。

同学部の1～4年生約600人のうち、100人ほどが日本食や工芸品を作って販売する企画を提出。企画が通った学生たちは当日まで、たこ焼きの作り方を調べて試作したり、和紙で日本人形の折り方を研究したりと、縁日の再現に向けて準備を重ねた。

企画を持ちこんだのは、田園調布学園大で10年にわたり、子どもたちが仮想の町で仕事や町づくりを模擬体験するイベント「ミニたまゆり」を開いてきた番匠准教授だ。海外でのミニたまゆり開催を模索していたところ、フエ外国語大を知り、まずは日本文化を広める祭りとして開催が決まった。

当日は他の学部生も集まり、全体で延べ約2400人が来店するなど大盛り上がり。会場で見守った番匠准教授は「学生たちの中で、日本文化や日本語をもっと学びたいという気持ちが大きくなったと感じる」と喜ぶ。参加した学生を追跡調査し、学習のモチベーションアップにつながったか研究するつもりだ。

「来年以降は、小さい子どもたちも受け入れて幼いころから日本に触れる機会をつくりたい。日本とベトナムの懸け橋になるような子どもを育てたい」と番匠准教授。いずれはミニたまゆりのような職業体験イベントに発展させ、「経済的に恵まれない子どもたちに仕事や勉強する意義を実感してもらいたい」と構想を広げている。

和だこづくりのブースなどが並んだフエ外国語大学の縁日（番匠さん提供）

神奈川新聞 2015年4月22日号掲載

2016年11月6日　福島県いわき市の東日本国際大学で開催された第10回大学自慢コンテストにおいて、ミニフエの活動が紹介され、総合３位の成績で入賞しました。

第２回　日本文化実践講座ミニフエ2016の概要

日　　時：平成２８年4月25日（土）　9:00～16:00
場　　所：ベトナム社会主義共和国　フエ市グエンコアチャム通り57番　フエ外国語大学キャンパス
参加人数：ミニフエ運営スタッフ200人　フエ外国語大学在学生1,500人
　　近隣の日本語学習者（中学生・高校生）300人　合計2,000人が来場
主　　催：田園調布学園大学　子ども未来学部　番匠研究室
共　　催：フエ国家大学付属フエ外国語大学日本語日本文化学部
協　　力：東北大学大学院教育情報学研究科　渡部研究室
　　東北大学大学院教育情報学研究科　佐藤研究室
　　国際交流基金ベトナム支部
協　　賛：株式会社カルチャー

第11回子どもがつくる町
ミニたまゆり2016

田園調布学園大学
〒215-8542 川崎市麻生区東百合丘3-4-1
TEL 044-966-2780
E-MAIL：c-center@dcu.ac.jp
http://minitama.jp/